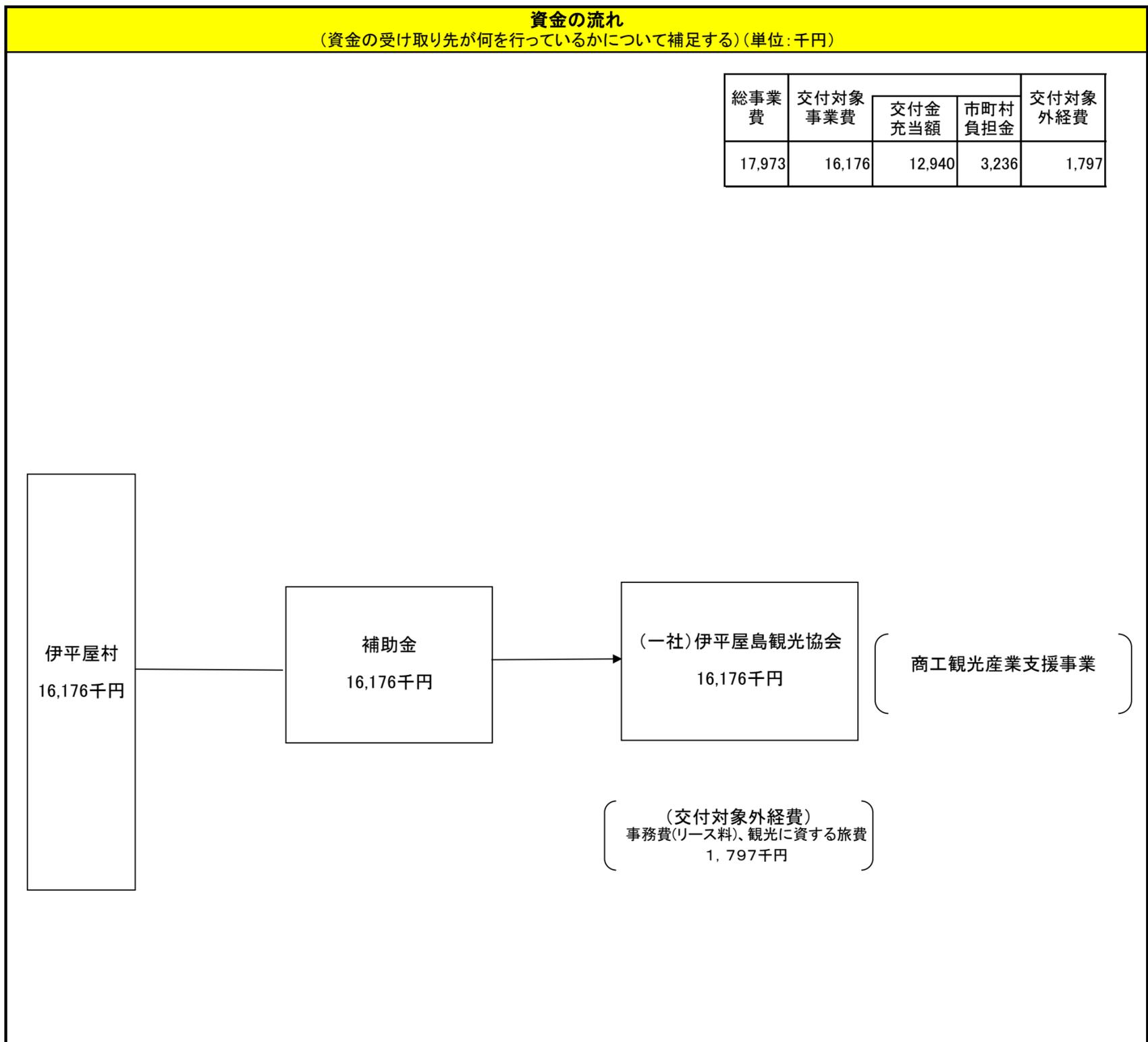


市町村名	伊平屋村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	商工観光産業支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部課名	観光交通課	事業実施 (予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進			
事業内容	伊平屋村の持続的な観光振興を図るため、伊平屋島観光協会へ支援(観光誘客プロモーション、観光情報発信、民泊受入支援、商工業と観光業の連携強化等)を行うことにより、民泊利用者数及び民泊事業者の増加が期待できる。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,804	15,832	22,382	16,594	16,176	
		(b) 予算現額	18,804	15,832	22,382	16,594	16,176	
		(c) 増減額(b-a)	2,000	0	0	0	0	
		(d) 繰越額						
		A. 計(b+d)	18,804	15,832	22,382	16,594	16,176	
	B. 執行済額		17799	15582	19236	16,594	16,176	
	うち交付金充当額		11839	12465	15389	13,275	12,940	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		94.7%	98.4%	85.9%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初の計画通りに事業を執行したため、過不足及び不用は発生していない。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	1団体約200名規模の大型の修学旅行を誘致すべく、参加区民家50軒を維持できるような地域(各戸別訪問)を継続的に実施		目標	(50軒)	(50軒)	(50軒)	(50軒)	
			実績	45軒	53軒	46軒	45軒	
	年間受入観光客数延べ800人以上の受入を目指し他県でのPR活動を実施		目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
			実績	実施済	実施済	実施済	実施済	
達成状況説明	・高齢化等により受入民家の確保に苦慮している状況である。また、民家の家主が帰村したことにより、受入することができなくなったことも影響している。 ・他県PR活動については、修学旅行営業や相談会等に参加しPR活動を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	民泊利用者数		目標	()	(4,431人以上)	(1,107人以上)	(2,696人以上)	()
			実績		383人	1,252人	1,575人	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明	昨年度の修学旅行受入は18校であったが、今年度は16校であったため目標値には達することができなかった。今後は新たな観光パンフレット及びポスターの制作等を行い、本村の魅力的な観光資源を村内外へアピールしていく。							

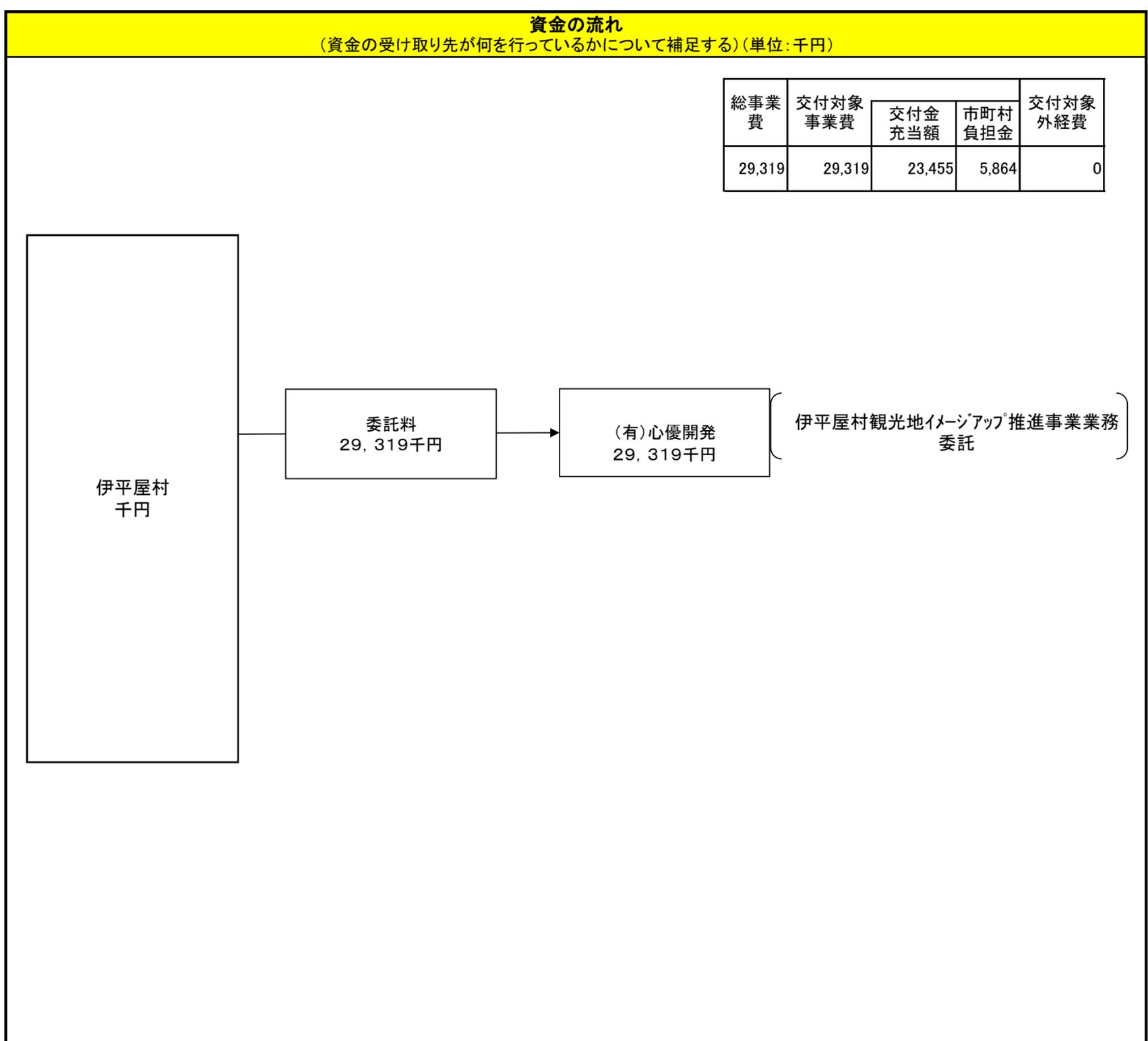
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	前年度に比べ受入実績は増加しているものの、高齢化の進行などにより受け入れ可能な民家の確保が困難となっており、設定した目標の達成には至らなかった。	<p>行政・観光協会・民泊事業者が連携し、観光パンフレットやポスターなどの広報ツールを活用して積極的に島外への情報発信を行、受入体制の強化や事前準備の円滑化を図る。</p> <p>比較的若年の世帯に対して民泊受入の可能性を働きかけ、参加促進を促す。</p>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、受け入れ可能な民家の発掘・支援を行い、民泊事業の本格再開に向けた基盤整備を進める。 新たに作成した観光パンフレットおよびポスターを活用し、村内外への効果的なPR活動を展開する。 		



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先は、補助金の交付要綱に即した団体かどうかを審査しているため、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、事業完了後に検査を実施し、事業内容に資する規模と判断したため妥当といえる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者である観光協会は総事業費の一部を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途については、事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光地イメージアップ推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部課名	建設課	事業実施 (予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	新・沖縄振興基本方針 該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	魅力的な観光地づくりの推進を図るため、観光スポットに向かうアクセス道路や公園など多くの人が利用する公共施設等の除草や伐木、海岸の漂着ゴミの収集を行い、観光地イメージアップを図ることを目的とする。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	22,383	29,318	32,390	29,318	29,318
		(b) 予算現額	26,219	29,318	32,390	29,318	29,319
		(c) 増減額(b-a)	3,836	0	0	0	1
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	26,219	29,318	32,390	29,318	29,319
	B. 執行済額		23,400	29,318	28,499	29,318	29,319
	うち交付金充当額		18,720	23,454	22,799	23,454	23,454
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.2%	100.0%	88.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		作業車両の故障等に伴い、増額があったが当初予算内で執行することができた。予算に関して、概ね計画通りに執行出来た。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光ルート等の雑草の除去および清掃作業を実施する。 ・アクセス道路: 10路線 ・観光地: 15カ所 ・海浜: 村一円 ・漂着ゴミ回収	目標	(10路線 15箇所)	(10路線 15箇所)	(10路線 15箇所)	(10路線 15箇所)	
		実績	11路線 7箇所	11路線 10箇所	10路線 14箇所	10路線 14箇所	
		目標					
		実績					
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 外部委託により、作業の管理が効率的に図られた。 作業車両の故障が多発したが、受託者の所有する車両を活用し臨機応変に対応し、効率よく作業を実施した。 県道田名野甫線、村道アグチャー線、クマヤ線、アツヤビシ線、アサ線、田名西線、島尻西線、野甫線、我喜屋ダム線、村道灯台線の10路線、観光地に関しては、伊平屋灯台、クマヤ海岸、潮下浜、念頭平松公園、とらず岩、林道、片隈神社、我喜屋ダム、屋蔵墓、上ノ川公園、米崎海浜公園周囲、野甫展望台、ヤヘー岩、無蔵水の14カ所の美化作業を行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R13年度)
	アンケート調査により、観光地周辺の景観形成について、観光地としてふさわしい景観であると感ずる回答80%以上	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	(95%)
		実績		80%	80%	80%	
	【参考指標】 観光アクセス道路の美化清掃: 29.5km 観光関連施設の美化作業: 18カ所	目標	()	(29.5km 18カ所)	(29.5km 18カ所)	(29.5km 18カ所)	()
		実績		51.6km 21カ所	51.6km 24カ所	51.6km 24カ所	
進捗状況説明		大型連休前に集中的に海浜清掃、観光地の除草を行うことで効果的な作業ができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施後、観光客および地域住民を対象にアンケート調査を行った結果、観光地周辺の景観形成について、「観光地としてふさわしい景観である」と感じた回答が80%を超え、高い評価を得た。 ・草刈り等の定期的な実施や観光地としての清潔感と快適さを保つことが来訪者の満足度につながった要因と考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年の課題である、作業員の確保を継続して行く必要がある。 ・季節ごとの草の成長状況を把握し、適切な時期を見極めた上で草刈り作業を計画的に実施し、作業の効率化と作業時間の短縮を図る。
今後の取り組み方針		
<p>管理が行き届いていない観光スポットについての美化・管理状況が評価に影響している可能性があるため、作業頻度や管理体制を見直すことで、地域全体として魅力ある観光地づくりを推進し、アンケート結果の更なる向上を目指す。</p>		



資金の用途の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先については、地方自治法施行令第167条の2及び伊平屋村財務規則第115条に基づき随意契約しており、妥当である。 ○予算規模については、事業内容に見合うものとする。 ○費目、用途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

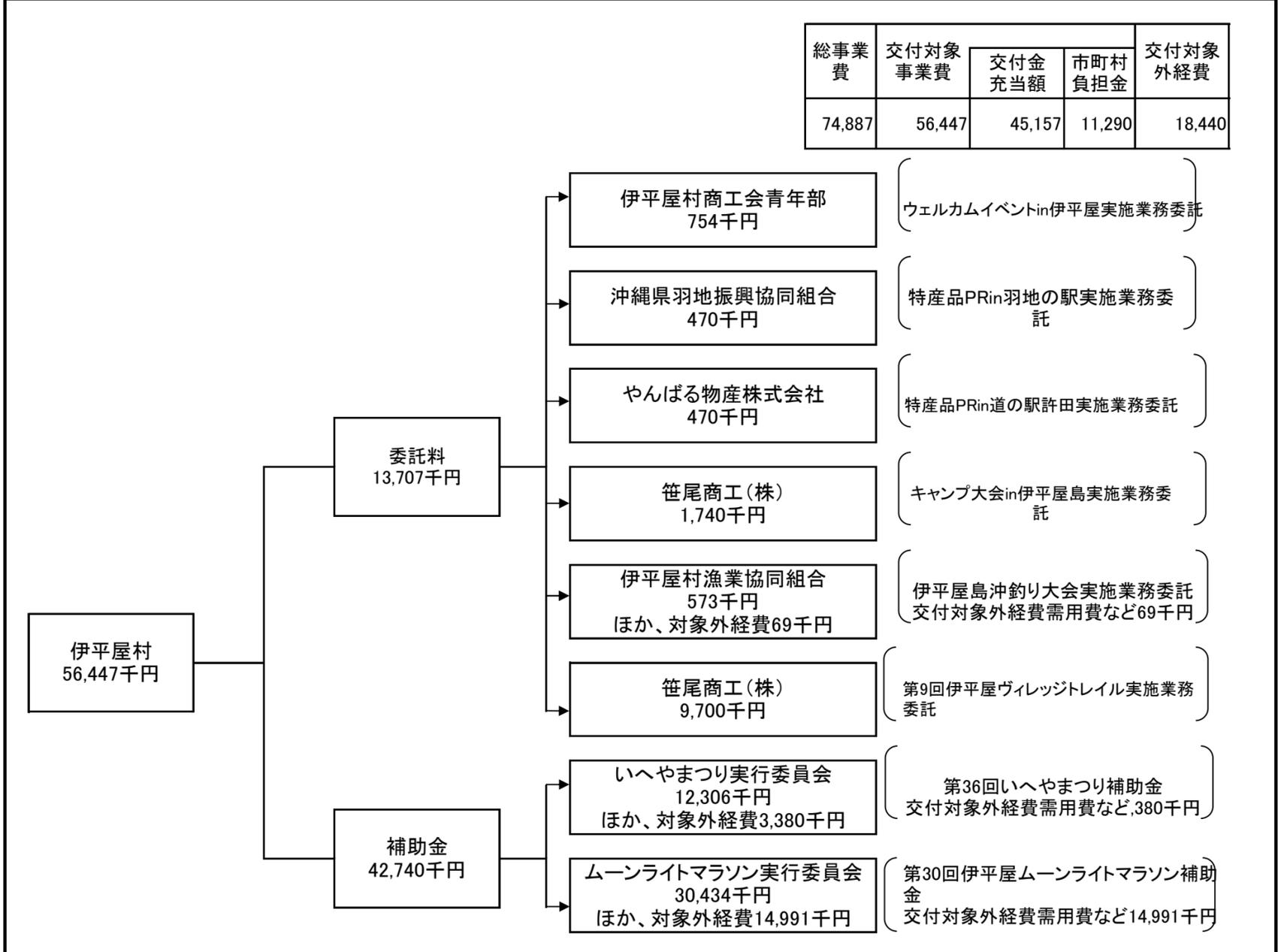
市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	誘客イベント推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-ウ	
担当部課名	観光交通課	事業実施 (予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	沖繩振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	本村を訪れる観光客の満足度向上を図るため、村内外においてイベントの開催支援等を行い、県内外に本村のPRを行うことで観光客の満足度向上と入域観光客数の増加を目指す。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,900	41,094	41,254	46,700	60,029
		(b) 予算現額	9,250	6,150	25,304	66,562	62,389
		(c) 増減額(b-a)	-30,650	-34,944	-15,950	19,862	2,360
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	9,250	6,150	25,304	66,562	62,389
	B. 執行済額		9127	6007	25304	54,617	56,447
	うち交付金充当額		7301	4805	20243	43,693	45,157
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	97.7%	100.0%	82.1%	90.5%
予算の状況の説明		イベント内容の拡充及び運営スタッフ等の増員により、2,360千円を増額した。不用額については、委託料の減や、対象外経費の整理等によるものである。その他、1件のイベントが中止となったため不用額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・委託事業7件	目標	(6件)	(8件)	(8件)	(7件)	
		実績	5件	7件	7件	6件	
	・補助事業2件	目標	(1件)	(0件)	(3件)	(2件)	
		実績	1件	0件	2件	2件	
達成状況説明	・委託事業については参加チームが少数であったこと、村外の他大会との日程の都合上、代替日の設定も困難であったことから中止を決定したため1件減となった。(スポーツイベント推進事業)						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	村内入域観光客数	目標	()	(11,925人以上)	(18,044人以上)	(19,000人以上)	()
		実績		18,044人	22,360人	22,569人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・1件のイベントが中止となったが、ムーンライトマラソンの第30回記念大会など内容を充実させたことにより、目標値を達成することができた。 ・年間では209人増(0.9%)であったが、繁忙期となる7月から10月の期間は、前年度同期間と比較して、594人の増加(6.3%)となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・村内の宿泊キャパが限られているため、成果目標を達成できたものの、受入体制の強化が必要である。 ・島外からイベントへの参加者を募集する場合、本島内の他のイベントとの兼ね合いから参加定員の確保に課題がある。 ・伊平屋村への交通手段が海上フェリーのみとなっていることから、入域観光客数はフェリーの稼働率に比例する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村内に新たな宿泊施設(ゲストハウスや古民家宿等)も増え、徐々にではあるが宿泊キャパも増加してきている。また、既存の宿泊施設もリニューアル等を行い、部屋数の拡充を図っている。 ・宿泊施設だけでなく今後新規飲食店の開業も控えていることから、宿泊と飲食両方の満足度向上が図られ、入域観光客数の増加が期待できる。 ・島外の他のイベントとのすみ分けを行い、独自性や魅力あるイベントの実施を図る。 ・フェリーの安定的な運航は気象条件により左右される要因が大きいことから、安心、安全な運航体制を構築できるよう運航計画の変更など担当課と連携を図る。

今後の取り組み方針

・フェリーオンライン予約システムが稼働し、観光客及び村民の利便性が向上した。今後は障がい者や団体利用客の利用も拡充し利便性の向上を図る。
 ・北部地域への大型テーマパーク開業に伴い、本村への誘客も期待できることから、引き続き多様なメニュー開発に取り組むとともに情報発信の強化を図る。
 ・宿泊体制の強化については、現状、各宿泊施設で対応しているため、こういった支援や取組が必要か引き続き検討していく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料については、地域、行政と連携して事業を推進することができる団体を選定し随意契約を行っており、妥当であると考え。補助金については実行委員会形式の団体への支出であり、交付要綱による審査を経て決定していることから、妥当であると考え。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は交付要綱に基づき精査しており、妥当と判断する。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、精算段階で検査を実施、目的に即し必要なものであったと判断した。

資金の流れ、費目・使途の評価

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	病虫害防除事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-イ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	県産農林水産物の安全・安定供給と消費者信頼の確保		
事業内容	さとうきびの生産性の向上と農家所得の向上を目指し、収穫量低下の原因となっている病虫害(イネヨトウ)の被害を防ぐため防除作業を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,129	7,877	7,798	7,160	7,309
		(b) 予算現額	7,129	7,877	7,798	7,160	7,309
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	7,129	7,877	7,798	7,160	7,309
	B. 執行済額		6335	6320	7248	7,107	6,764
	うち交付金充当額		5068	5703	5798	5,685	5,411
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		88.9%	80.2%	92.9%	99.3%	92.5%
予算の状況の説明		当初予定していた予算内での執行となり、R6年度の設置面積が148.9haと概ね計画どおりの執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	防虫剤(性フェロモンチューブ)散布:160ha	目標	(160ha)	(160ha)	(160ha)	(160ha)	
		実績	141ha	162.5ha	154.8ha	148.9ha	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	伊平屋村さとうきび生産の目標値の160haに対し、フェロモンチューブ設置面積は、148.9haの実績値となった。村全体での防除作業を効果的に実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	さとうきびの生産量(病虫害防除等による生産量の安定化)	目標	()	(5,277t)	(5,060t)	(5,110t)	()
		実績		5,203t	3,931t	5,616t	
	病虫害の発生件数の抑制 平均6.00匹/日以内	目標	()	平均6.00匹/日以内	平均6.00匹/日以内	平均6.00匹/日以内	()
		実績		平均1.30匹/日	平均0.20匹/日	平均0.06匹/日	
進捗状況説明	令和4年度以降、年1回(3月)実施していた初期防除を2回(12月、3月)に分けて実施することで、害虫被害を最小限に抑えることができています。生産量については、生産目標値を超え110%の実績となった。						

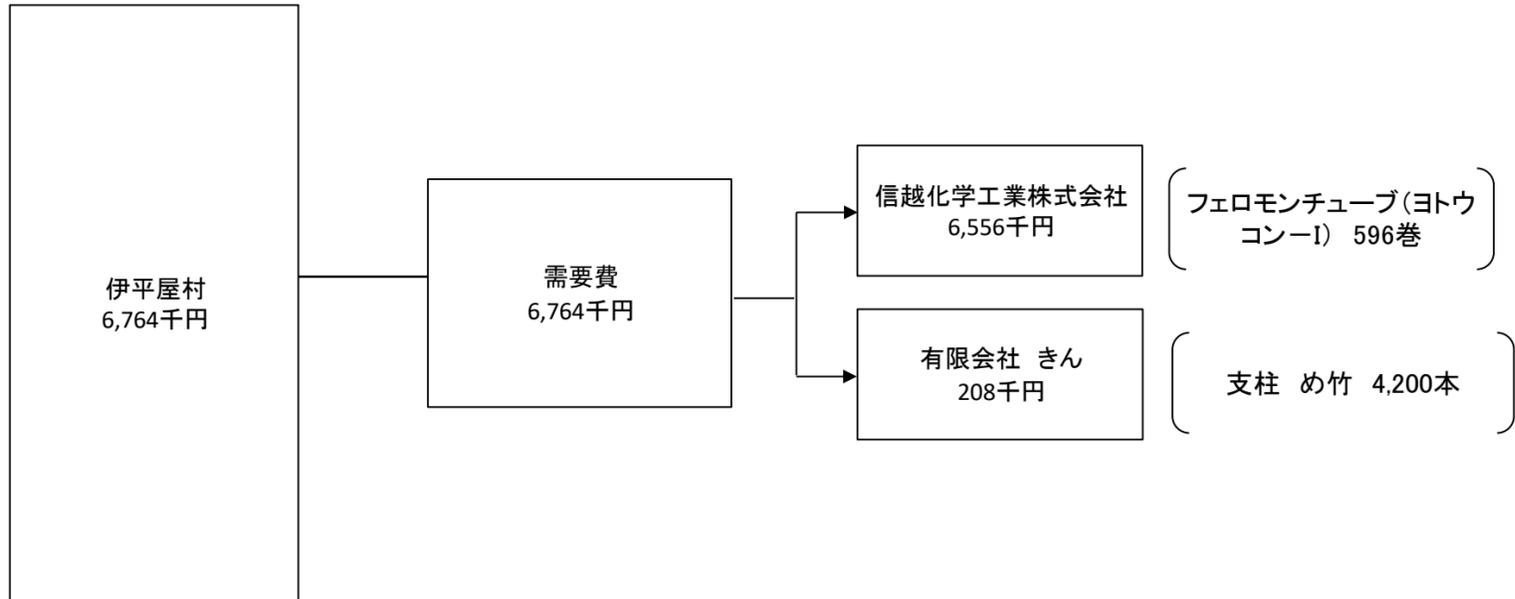
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・病害虫(イネヨトウ)はイネ科雑草・ほ場周辺緑部等の雑草にも寄生するため、農家による周辺雑草の管理について継続的な指導を実施し、さとうきび圃場の被害を防ぐ必要がある。</p>	<p>・共同防除の取り組みとして、JA及び生産農家・各関係機関と連携し、イネ科等の周辺雑草等の管理も含めた肥培管理及び薬剤使用等の指導を継続し、さとうきび圃場の被害軽減および生産量の安定化を図る。</p> <p>・病害虫が発生しにくい生産条件の整備や、発生時期や生態を把握しそれに応じた防除策計画を立てる。</p> <p>・環境に配慮した農業を推進する。生物多様性を保つことで、自然の病害虫制御作用を活用し、持続可能な農業を実現に努める。</p>

今後の取り組み方針

・地域の農業者と連携し、情報共有を行い、農業者同士での経験や知識の交換を通じて、効果的な防除方法や新たな技術の導入を促進する。また、農業試験場や研究機関との連携を強化し、新しい防除技術や品種改良の研究結果を現場に活かし、生産性向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,764	6,764	5,411	1,353	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定方法については、フェロモンチューブの製造・販売をしている信越化学工業株式会社を選定した。</p> <p>○予算規模については、事業内容に見合うものとする。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	伊平屋村優良繁殖牛導入事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	農家の経営安定化を図るため、畜産農家が行う繁殖牛導入費用の一部(上限を50万として、購入費用の半額を補助)を助成し、子牛の価格向上を目指す。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,600	7,000	7,000	7,000	7,000
		(b) 予算現額	5,600	7,000	7,000	7,000	3,500
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 3,500
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	5,600	7,000	7,000	7,000	3,500
	B. 執行済額		4,635	4,981	2,453	770	985
	うち交付金充当額		3,708	3,984	1,962	693	788
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		82.8%	71.2%	35.0%	11.0%	28.1%
予算の状況の説明		飼料価格等の高騰により畜産経営環境が厳しい状態となり執行率が低くなった。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	優良繁殖雌牛導入頭数14頭	目標	(14頭)	(14頭)	(14頭)	(7頭)	
		実績	13頭	7頭	3頭	4頭	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	飼料価格等の高騰により畜産経営環境が厳しい状態となり、優良繁殖雌牛導入数4頭と目標を下回る結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 102%以上	目標	()	(102%以上)	(102%以上)	(103%以上)	()
		実績		107%	107%	107%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	本事業により導入した繁殖用雌牛から産まれた子牛とそうでない子牛を比較した結果、目標を達成することが出来た。						

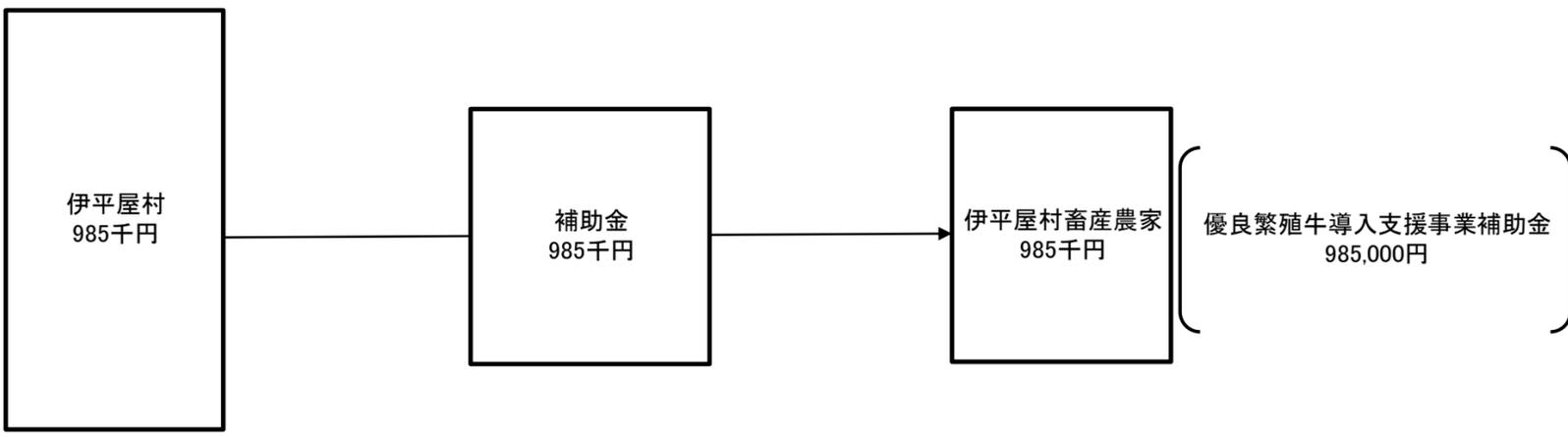
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 子牛のセリ値については市場の状況により乱高下することもあることから、小規模の経営体が多数を占める本村においては、安定的な畜産経営が行えるよう中・長期的な経営計画策定や事業による支援等を引き続き必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めに導入計画を立てるよう調整し、導入計画に変更が生じた場合は、関係団体と連携し導入に努める。 畜産農家への支援としては、繁殖技術の向上等について講習会の開催や他地区との技術交流支援を行う。

今後の取り組み方針

母牛点数の高い雌牛を導入し、産まれた仔牛(雌)を新たな繁殖用雌牛として育成することや、白血病検査の実施によって品質向上を図り、引き続き事業継続による導入を支援していく。また、説明会・講習会の開催や他地区との技術交流支援、畜産共進会等への積極的な参加を推進することで繁殖技術の更なる向上と村内の繁殖用雌牛の改良・更新を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

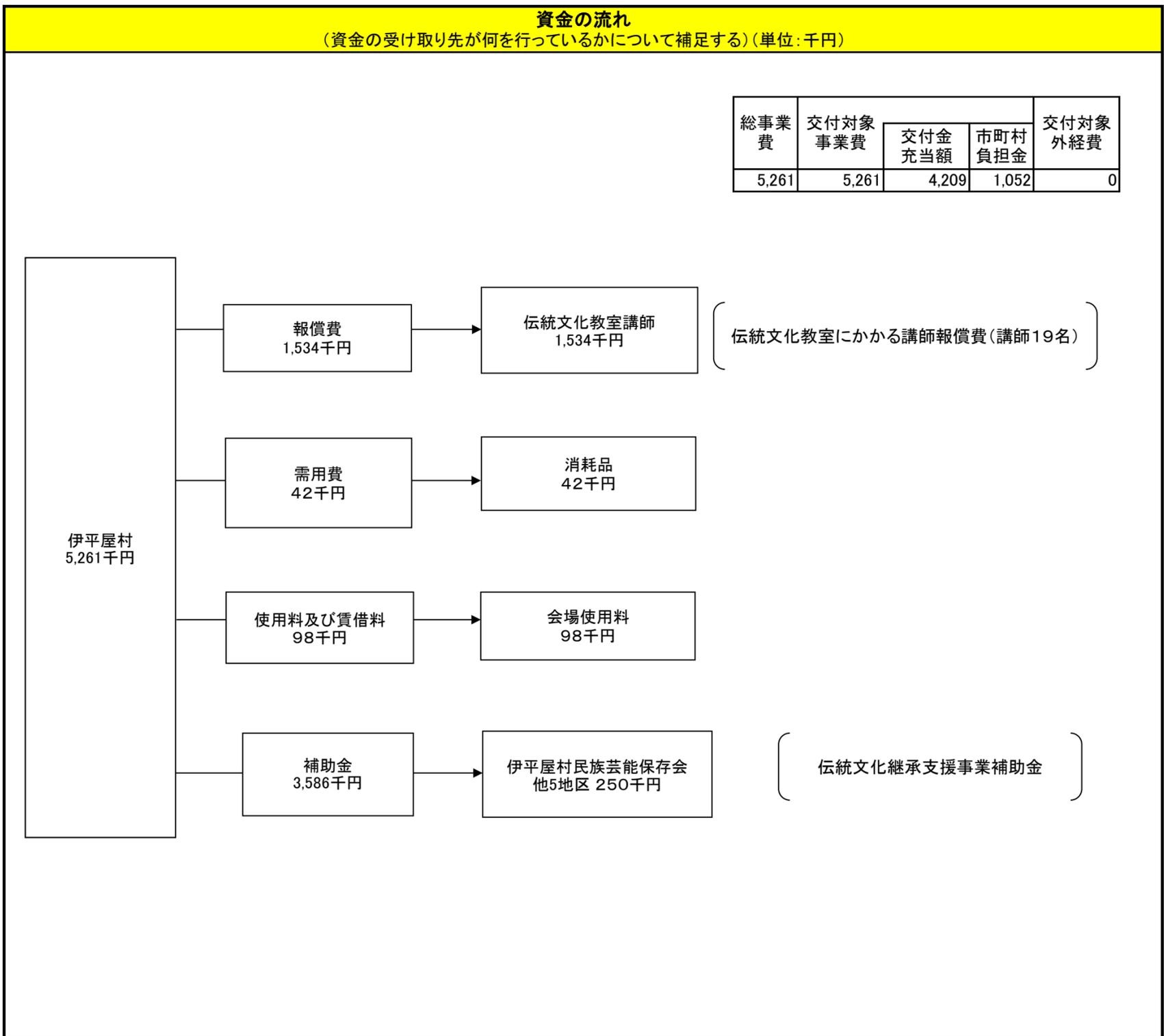
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
985	985	788	197	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、村内の畜産農家全員を対象としており妥当である。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については見直しが必要である。農家意向調査・導入計画の事前聴取を行い、適正な予算規模に努める。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者への補助は、事業に係る費用の半額且つ上限額を定めており妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・用途については、事業目的である繁殖牛導入に係る費用の補助のみとなり適正である。

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	伝統文化継承支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及		
事業内容	次世代を担う人材を育成するため、地域人材と連携した伝統文化・芸能の課外講座や保存会の活動支援を行い、地域アイデンティティの強化、観光振興、教育的効果、地域活性化等を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,290	9,109	12,000	14,500	14,500
		(b) 予算現額	7,290	9,109	12,000	8,595	14,500
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 5905	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	7,290	9,109	12,000	8,595	14,500
	B. 執行済額	6,691	2,215	1,193	7,007	5,261	
	うち交付金充当額	5,361	1,771	954	5,605	4,209	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	91.8%	24.3%	9.9%	81.5%	36.3%	
予算の状況の説明	・新型コロナウイルス感染症の影響により、体制が脆弱になったことや、イベントの中止等、各団体への支援の減により執行額が減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	伝統文化教室の開催(毎月第3水曜日)	目標	(16講座 (11回))	(13講座 (10回))	(9講座 10回)	(9講座 10回)	
		実績	16講座 (6回)	13講座 (8回)	9講座 10回	9講座 10回	
	各支部・団体への支援(6団体)	目標	(6団体)	(6団体)	(6団体)	(6団体)	
		実績	3団体	0団体	6団体	6団体	
	島外芸能公演の開催出演	目標	()	(1回)	(1回)	(1回)	
		実績		0回	0回	0回	
	達成状況説明	・伝統文化教室の開催及び各支部、団体への支援は、当初計画通りに実施することができた。 ・芸能公演を予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響により体制が脆弱であった事と、出演イベントへの参加が中止となり未達成となった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度
伝統文化教室への参加率:100%		目標	()	(100% (116名))	(100% (105名))	(100% (100名))	()
		実績		100% 116名	100% (105名)	100% (100名)	
伝統芸能演舞者数:80名 来場者数:140名		目標	()	(80名 140名)	(80名 140名)	(80名 140名)	()
		実績		中止	中止	中止	
進捗状況説明		・伝統文化教室の参加率は100%で目標達成した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止により芸能公演を中止したため、伝統芸能演舞者数は実績無しとなった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類へ移行したことにより、村諸行事が実施されるが、体制の構築が不十分で伝統行事を実施することで精一杯のため、芸能公演を中止にせざるを得なかった。 ・伝統芸能に関わる講師が高齢化等により少なくなっており、教室の維持が難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見直し、開催時期の再検討など持続可能なプログラム、人員配置等を検討する。 ・子ども向けだけでなく、大人世代の伝統文化教室を開催するなど、後継者育成にも着目し、持続できる文化芸能の保存・継承ができるプログラムを構築する。 ・各団体への支援を事前に確認するなど、連携を密にする。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・講師の高齢化等による人材不足解消に向け、地域人材や村民俗芸能保存会と連携し、新たな人材育成の取組を行う。 ・開催時期や公演等の人員配置など本村出身の芸能関係者との連携を図りながら、伝統芸能・文化の継承機会を増やし、興味関心をもつ講演等を行う。 		



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、業務実績や実技能力、文化事業の経験等を踏まえて選定しており妥当である。補助金の支出先についても、交付要綱に適合する団体かどうかを審査しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的に即した人件費・補助金等の支出であるため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成25年度 ～ 令和13年度	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	個別にあつたきめ細かい学習支援を実施するため、特別支援教育支援員を各所へ配置する。 ①村営塾の塾講師を配置し、家庭学習支援等による教科指導を強化する。 ②特別支援を必要とする児童に対し、学校専属の支援員を配置し、授業支援の強化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,150	23,150	23,150	23,141	36,756
		(b) 予算現額	23,150	23,150	23,150	23,141	36,756
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	23,150	23,150	23,150	23,141	36,756
	B. 執行済額		19,424	17,186	17,083	17,524	22,194
	うち交付金充当額		15,381	13,748	13,667	14,019	17,755
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		83.9%	74.2%	73.8%	75.7%	60.4%
予算の状況の説明		実績値による減額が生じた。 特別支援員の配置は1名不足し、学習支援員一人が10月に離職したため。 村営塾は通塾や合宿の参加者を申し込み制にしたため、申込数に応じて減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	特別支援員を必要とする児童生徒への支援員の配置 中学校1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(2名)	
		実績	1名	1名	1名	1名	
	学習支援員の配置 小学校2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
実績		3名	2名	1名	2名		
達成状況説明	・特別支援員の配置は中学校1名は達成できたが、小学校の配置は応募がなく未達である。 ・学習支援員は小学校に2名配置で達成できたが、中学校免許を持つ応募者がなく未達である。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか(80%以上)を含め、当該事業の在り方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		100%	100%	100%	
	沖縄県学力到達調査における、県と本村との平均正答率の差	目標	()	(小:-5.0以上 中:-4.3以上)	(小:-0.3以上 中:-7.4以上)	(小:-5.0以上 中:-4.3以上)	()
		実績		小:-9.375 中:-2.95	小:-4.925 中:-7.175	小:-14.325 中: 2.58	
進捗状況説明	・特別支援配置について保護者へアンケートの結果は、満足50%やや満足50%でやや満足以上が100%であった。 ・学力到達テストの県と本村の平均正答率の差は小学校が達成できなかったが、中学校は達成できた。						

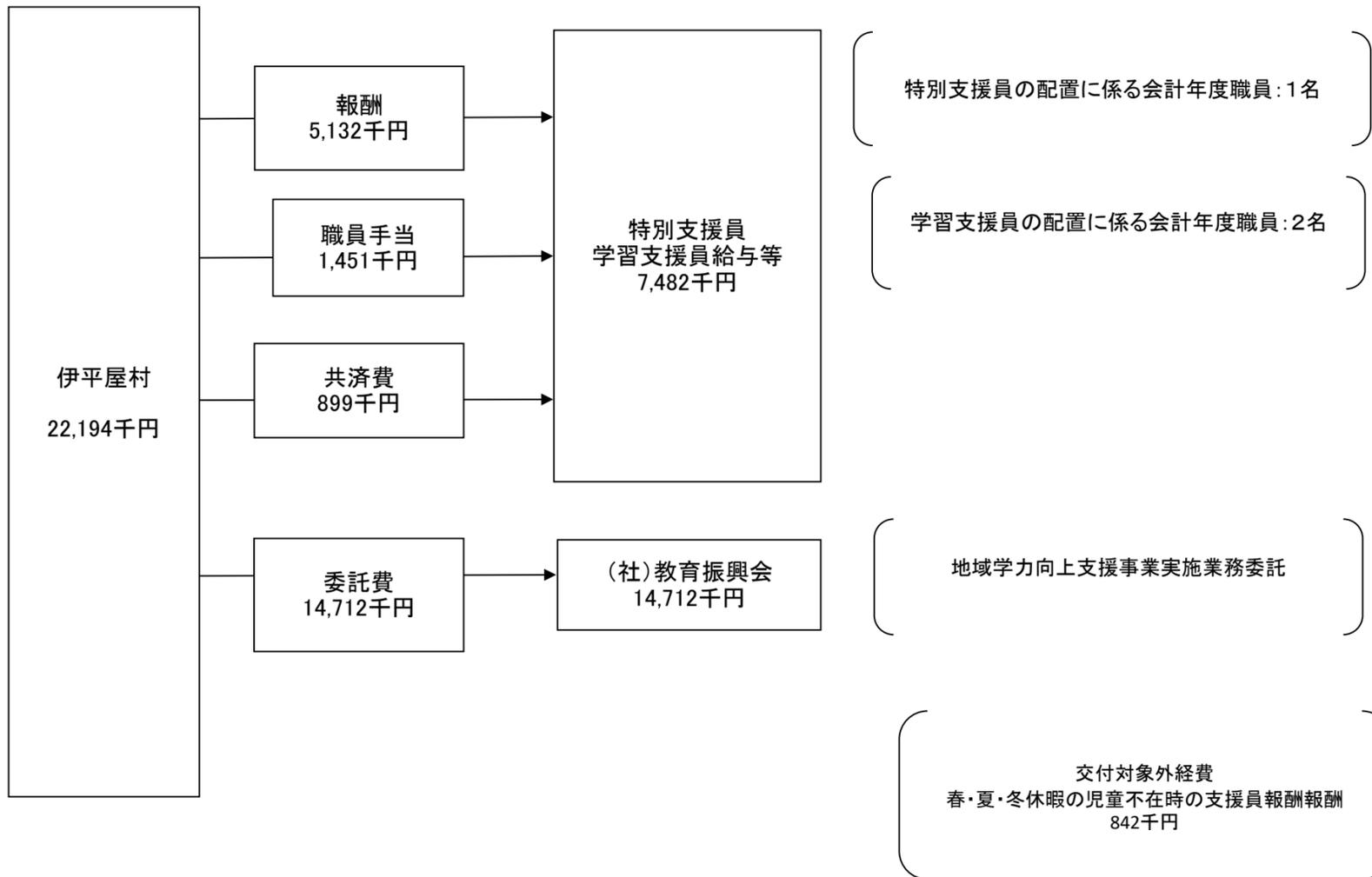
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習支援を中心に事業を実施しているが、家庭学習への支援不足が、小学生の学力到達度調査の成果目標を達成できなかった要因であると考えられる。 ・特別支援・学習支援員の配置は、小中学校それぞれに1名を配置する計画であったが、小学校に2名の学習支援員、中学校は1名特別支援員となった、支援を要する児童生徒に切れ目無く支援できているかを確認検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携強化や家庭学習を促進する為に、家庭学習教材の提供、保護者向けの学習支援情報の提供等の取り組みの充実を図る。 ・特別支援員・学習支援員の配置に関しては、保護者アンケートを参照し必要とする児童生徒にどのように配置していくかを学校と意見調整する。 ・村営塾に関しては、指標としている学力到達調査の方法が変わる予定のため、指標の取りかたを検討しなければならない。

今後の取り組み方針

- ・家庭学習の定着状況を把握するためのアンケートや個別面談を定期的実施し、実態に即した支援内容の見直しを図る。
- ・特別支援員・学習支援員の配置は引き続き、支援を要する児童生徒への配置できるよう工夫を行う。
- ・村営塾の運営に関しては、個別の指導が充実するようなクラス分け等の工夫を要する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

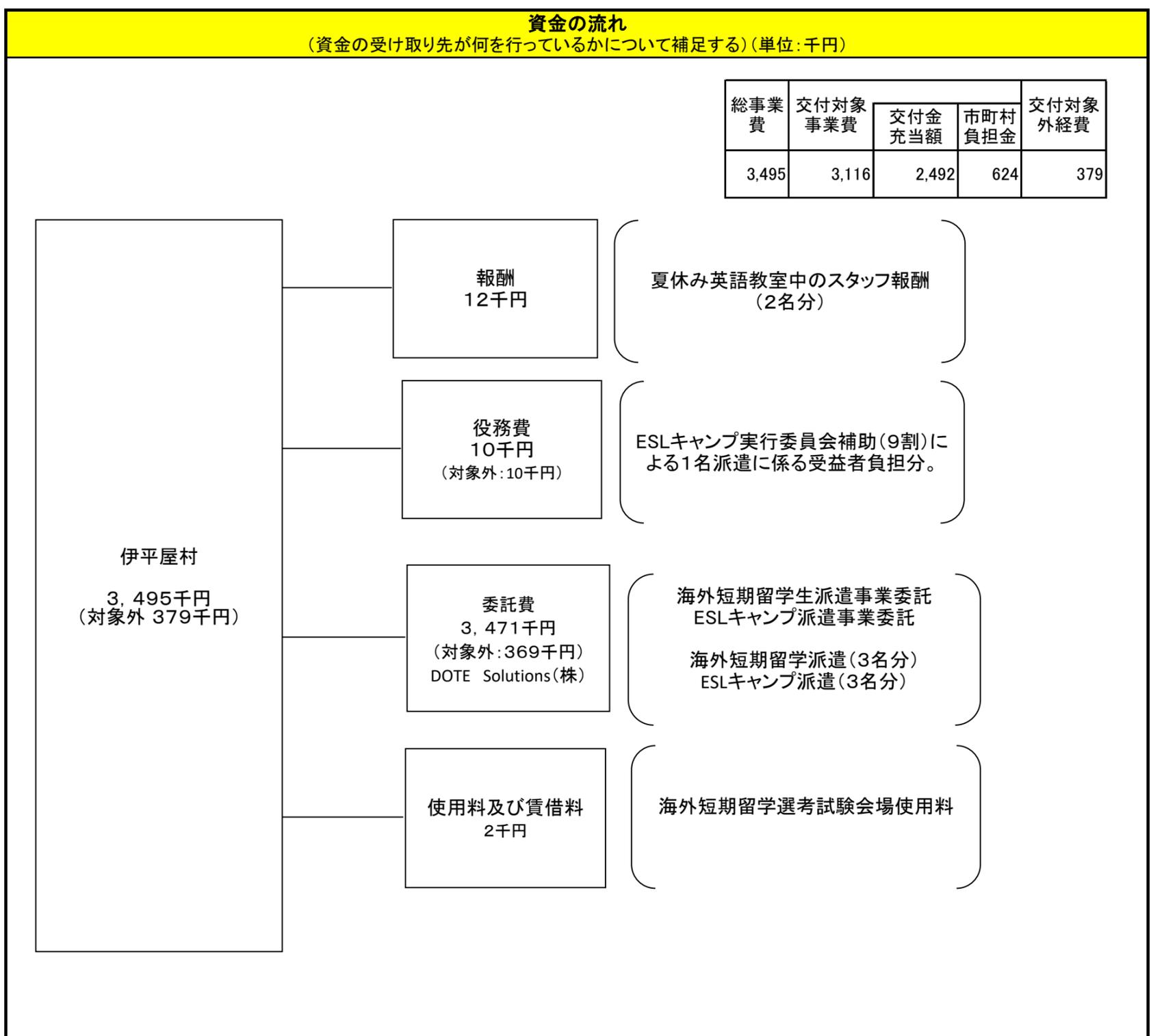
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
23,037	22,194	17,755	4,439	842



資金の流 点検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員配置については、業務実績、技能を勘案し選定を行っているため、妥当と考える。村営塾に関してはプロポーサル選定方式で選んだため妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額はそれぞれ事業内容に見合ったもののため適切である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的に即した人件費・委託費のため必要なものと判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	英語学習支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25年度 ～ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進		
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、イングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し異文化を体験する機会を与える。また、イングリッシュキャンプでは英語でのコミュニケーションやスキットなど英語を使った発表機会を多く盛り込み、語学学習だけでなくコミュニケーション能力や表現力の向上を図る。以上の活動を通して、本村における、クルーズ船の寄港やインバウンド需要の増加などへ対応するための人材育成を目指す。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,150	2,110	2,110	2,084	3,698
		(b) 予算現額	310	2,110	2,110	2,084	3,698
		(c) 増減額(b-a)	▲1,840	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	310	2,110	2,110	2,084	3,698
	B. 執行済額		242	174	106	1,863	3,116
	うち交付金充当額		166	139	840	1,490	2,492
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		78.1%	8.2%	5.0%	89.4%	84.3%
予算の状況の説明		各取り組みの目標値を達成したため、執行率も概ね達成できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	海外短期留学(米国)派遣:3名	目標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	中止	中止	2名	3名	
	ESLキャンプ派遣:3名	目標	()	()	()	(2名)	
		実績				3名	
	夏休み英語教室:20名	目標	()	()	()	(20名)	
実績					36名		
達成状況説明	<p>・海外短期留学について、今年度より村内中学生だけでなく村出身高校生まで募集枠を上げたため、参加希望者が増え、派遣目標数を達成した。</p> <p>ESLキャンプおよび夏休み英語教室について、学校との連携を強化し、積極的な参加促進に努めた結果、目標を達成することができた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	保護者へのアンケートで、海外での生活・体験や外国人講師との交流を通して、児童生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		87.5%	100.0%	100.0%	
進捗状況説明	<p>・海外短期留学及びESLキャンプにおいては、安全な事業運営体制を確保するとともに、保護者との綿密な連携を図ったことにより、参加者・保護者双方から一定の満足度が得られた。</p> <p>・夏休み英語教室では、米国の大学講師や学生によるESL英語学習を実施し、語学力の向上に加え、児童生徒の異文化理解や国際的な視野の拡大にも寄与したことから、高い参加者満足度が得られた。</p>						

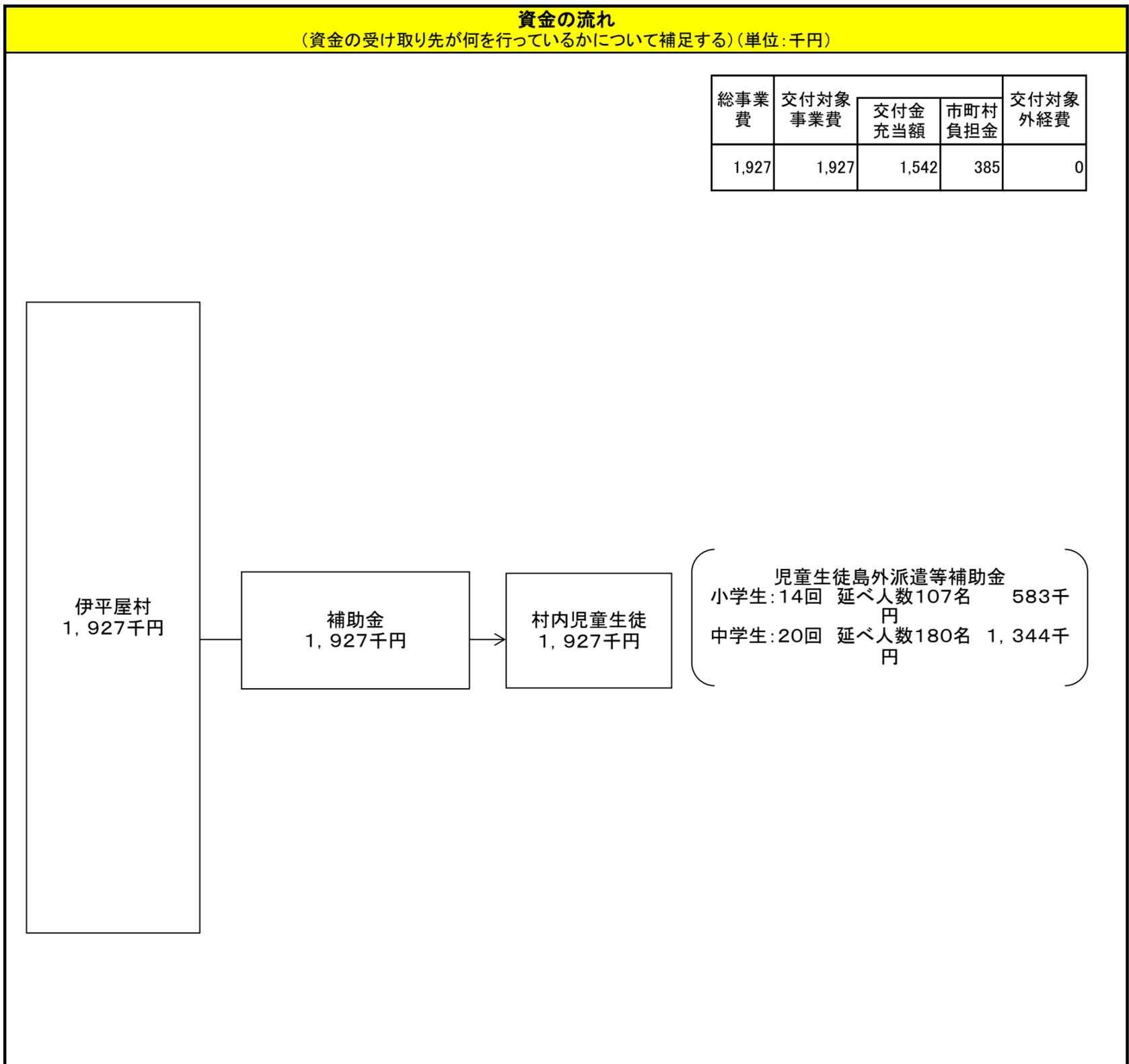
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・海外短期留学において、本村児童生徒の英語学習の機会が更に増やすため、対象枠を高校生まで拡大し実施した。 ・今年度初めて本村児童生徒をESLキャンプに派遣し、小学生の段階から異文化理解や国際理解の機会を提供することができた。 ・夏休み英語教室では、小学生の参加数は多かったものの、部活動など学校との調整が不十分だったため、中学生以上の参加者は少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度も募集枠、村内中学生及び村出身高校生とし、引き続き児童生徒の英語学習の推進を図る。 ・ESLキャンプ(夏休み期間中)については、早めに募集を開始し、スケジュール提供することで、参加者の調整を早めに行えるよう配慮する。 ・夏休み英語教室について、令和7年度は学校と連携し早めにスケジュール調整することで、中学生が参加しやすい環境づくりに努める。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・ESLキャンプ・海外短期留学については、委託先や実行委員会と密に連携し、継続した英語学習機会を提供するとともに、引き続き参加者および保護者の満足度向上に努める。 ・夏休み英語教室については、対象が小学生から中学生と幅が広く、一人ひとり学習進度も異なるため、現地スタッフや講師と事前に学習内容を協議し、個別最適化されたプログラムを展開する。 		



資金の使途の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、令和6年に他市町村も含む本村との英語学習に係る連携協定を締結しており随意契約としては妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○短期海外留学・ESLキャンプにおいて、派遣費の10%を受益者が負担したことから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途は事業目的のみ限定し、精算段階で検査を実施しており必要なものであったと判断した。

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-4-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26年度 ～ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	離島と本島・県外との交流促進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	村外で実施されるスポーツ大会や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、本島との交流機会が少ない離島の特殊性の平準化に努め、小規模校では経験できない他地域との交流や各種イベント・スポーツ大会を通じ、児童生徒の健全な育成を推進するため、派遣費用を助成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,151	2,151	2,150	2,484	2,402
		(b) 予算現額	1,310	1,310	2,150	2,484	2,402
		(c) 増減額(b-a)	▲ 841	▲ 841	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	1,310	1,310	2,150	2,484	2,402
	B. 執行済額		164	164	927	1,379	1,927
	うち交付金充当額		131	131	742	1,103	1,542
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		12.5%	12.5%	43.1%	55.5%	80.2%
予算の状況の説明		派遣回数が増加し、執行率も前年度を上回った。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	当該開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(小学生4回・60名)	目標	(4回 60名)	(4回 60名)	(4回 60名)	(4回 60名)	
		実績	7回 52名	8回 63名	9回 93名	14回 107名	
	当該開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(中学生4回・216名)	目標	(4回 216名)	(4回 60名)	(4回 216名)	(4回 216名)	
		実績	6回 97名	7回 72名	19回 147名	20回 180名	
達成状況説明	派遣回数の目標は小中学生でそれぞれ達成しているが、生徒数の減少及び部活動の方針変更(任意入部)により、中学生の派遣人数は目標に達することができなかった						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が広い視野を持てたか(80%以上)含め、当該事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		84.6%	96.4%	100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	派遣回数・派遣人数ともに前年度を上回り、島外での教育活動の場が増えたことで、児童生徒の積極性や社会性の向上に寄与していることが、保護者アンケートからも確認できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	派遣費補助を行うことによって保護者の負担が軽減され、各種大会等への参加することによって、児童生徒の新たな挑戦、意欲を引き出し、健全な育成が図れた。	本事業の継続的に実施することで事業効果の向上を図るため、文武両道の観点からスポーツ大会偏重ではなく、文化・学習面での交流や発表会等への派遣も積極的に行うよう指導・助言していく。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会への派遣が目立ったため、文化や学習等の交流・派遣についても推奨していく予定。 ・児童生徒の広い視野を持つことができたどうかの検証について、引き続き保護者アンケートで実施する。 ・派遣後のフォローアップとして、児童・生徒が島外で学んだ経験をその後の学びにつなげていく支援策を検討する。 		



資金の流 点検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、児童生徒の所属する団体であることから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、当初事業計画に沿った予算規模であったため、妥当であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○船賃及び宿泊費以外の経費については、受益者負担としたため、妥当であると考え。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的のみに限定としたことから妥当であると考え。

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	キャリア教育支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-4-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成26年度～ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	起業家の育成		
事業内容	本村は離島で高校が無いため、中学卒業後高校入学と同時に島発ち(沖縄本島へ離村)するが、過疎化が進む当村において雇用先も少ないため、沖縄本島での職場体験学習を行い、島で育った自信と誇りを持った生徒の育成を目的とする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,809	4,809	4,809	1,983	1,000
		(b) 予算現額	4,809	4,809	4,809	1,983	1,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	4,809	4,809	4,809	1,983	1,000
		B. 執行済額	2187	432	1023	418	364
		うち交付金充当額	1708	346	818	311	291
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	45.5%	9.0%	21.3%	21.1%	36.4%
	予算の状況の説明	・執行率が低調となった要因は、生徒の体調不良で参加数が減ったこと、予定日数が減った事によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	・商品開発を等した生徒への研修	目標	(研修の実施)	(研修の実施)	()	()	
		実績	研修の実施	研修の実施			
	パッケージデザイン決定	目標	(デザインの決定)	(デザインの決定)	()	()	
		実績	未実施	実施			
	・商品開発、職場体験を通じた商品の発表会	目標	(発表会実施)	(発表会実施)	()	()	
		実績	発表会実施	未実施			
	・外部講師を招聘しての授業の実施	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	・村内での産業学習の実施	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	・本島への職場体験(マナー講座の実施)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	未実施	未実施	実施	
・職場体験を通じた発表会	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
	実績	実施	未実施	実施	実施		
達成状況説明	・中学1年生については、次年度島外職場体験を見据え、地域学習と村内産業体験を実施した。 ・中学2年生については、本島北部での職場体験(4箇所)を実施した。□ ・マナー講座について、島外より講師を招聘し、中学1・2年生合同受講した。□						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(85%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()	(85%以上)	()	()	()	()
		実績			86%			
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(60%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(60%以上)	(60%以上)	()	()
実績					67%	61.5%		
進捗状況説明	概ね計画通りに事業を実施することができ、生徒を対象としたアンケート結果では、26名中14名が「働くことへの興味・関心が高まった」と回答した。特に、島外での職場体験は、今後の進路選択やキャリア形成に向けた貴重な機会となったと考えられる。							

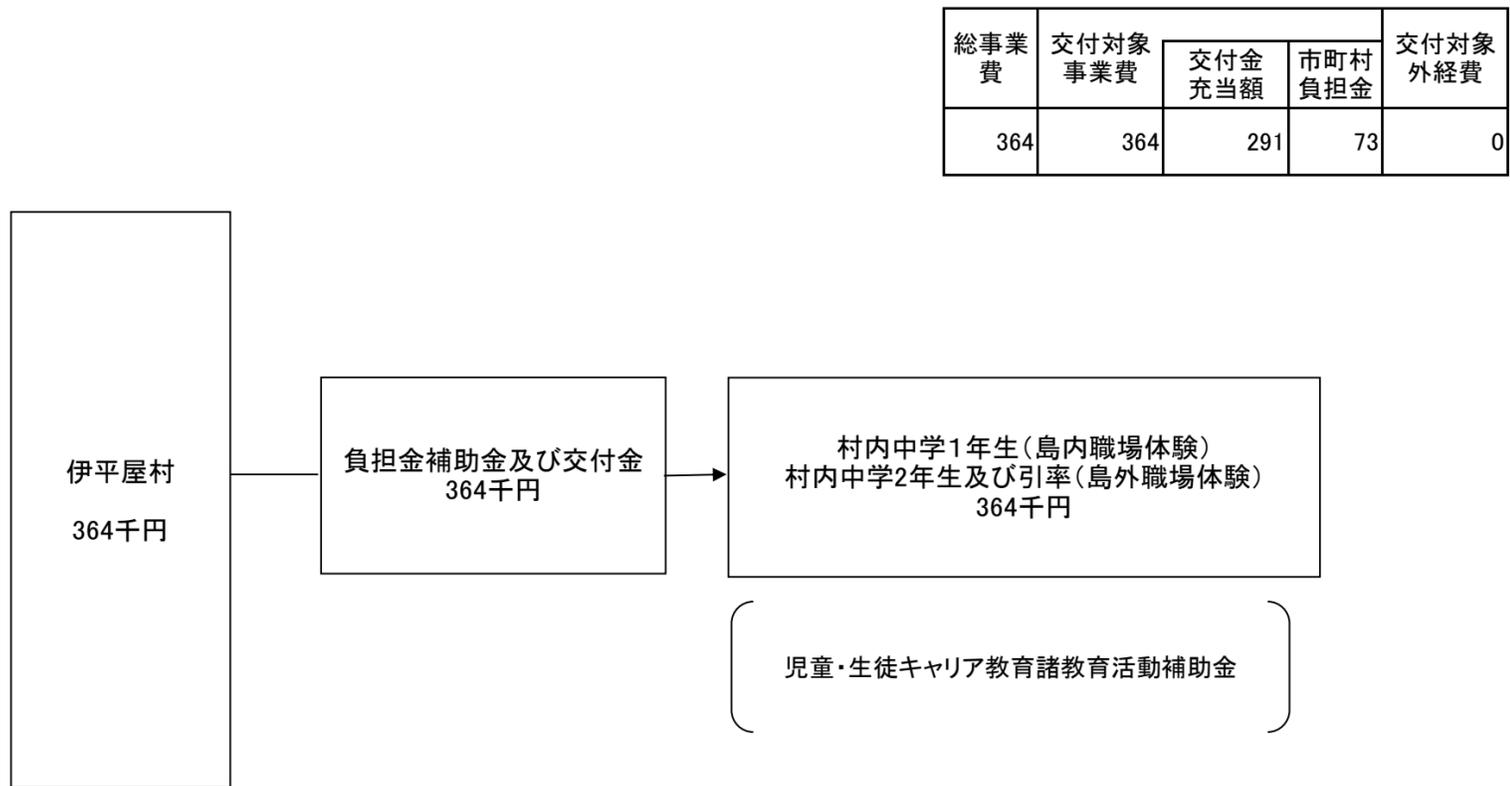
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 本年度実施したキャリア教育支援事業に関する生徒アンケートにおいて、事業全体に対する満足度は61.5%と、概ね肯定的な評価が得られた。アンケートの記述回答にて島外の職業体験や様々な社会人と関わる機会を持ったことで、職の多様性や、社会人のプロ意識ややりがいなどに触れ、将来について考えるきっかけになったとの回答が得られたことから、島外の全く関わりのなかった社会に接する機会を事業で提供することが、成果目標の達成に直結したと考えられる。 マナー講座については、島外から専門講師を招聘し、1・2年生合同で円滑に実施することができた。 中学2年生を対象とした島外での職場体験では、体調不良者が出たことにより、参加人数が当初の予定よりも少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> マナー講座については、島外から専門講師を招へいすることで、日常では得難い専門的な知識や接遇マナーを学ぶ機会となった。今後も引き続き、専門性の高い講師の活用を検討していく。 島外職場体験については、体調不良者が出た場合を想定し、予備日程の設定など柔軟な対応を検討する必要がある。併せて、当日参加できなかった生徒へのフォロー体制を整えるため、学校関係者と連携を密にし、必要な支援や助言を適切に行っていく。

今後の取り組み方針

・令和8年度からキャリア教育の主な対象を中学2年生から中学1年生へ引き下げたいとの学校側からの要望を受け、令和7年度は予算の範囲内で中学1年生および中学2年生の両学年を対象とした島外職場体験の派遣を実施する必要がある。

・職業人講話については、今年度は島内の人材を講師として招聘したが、島にはない多様な職業について知る貴重な機会であることから、次年度は全学年を対象に、島外の人材を活用した職業人講話の実施を予定している。

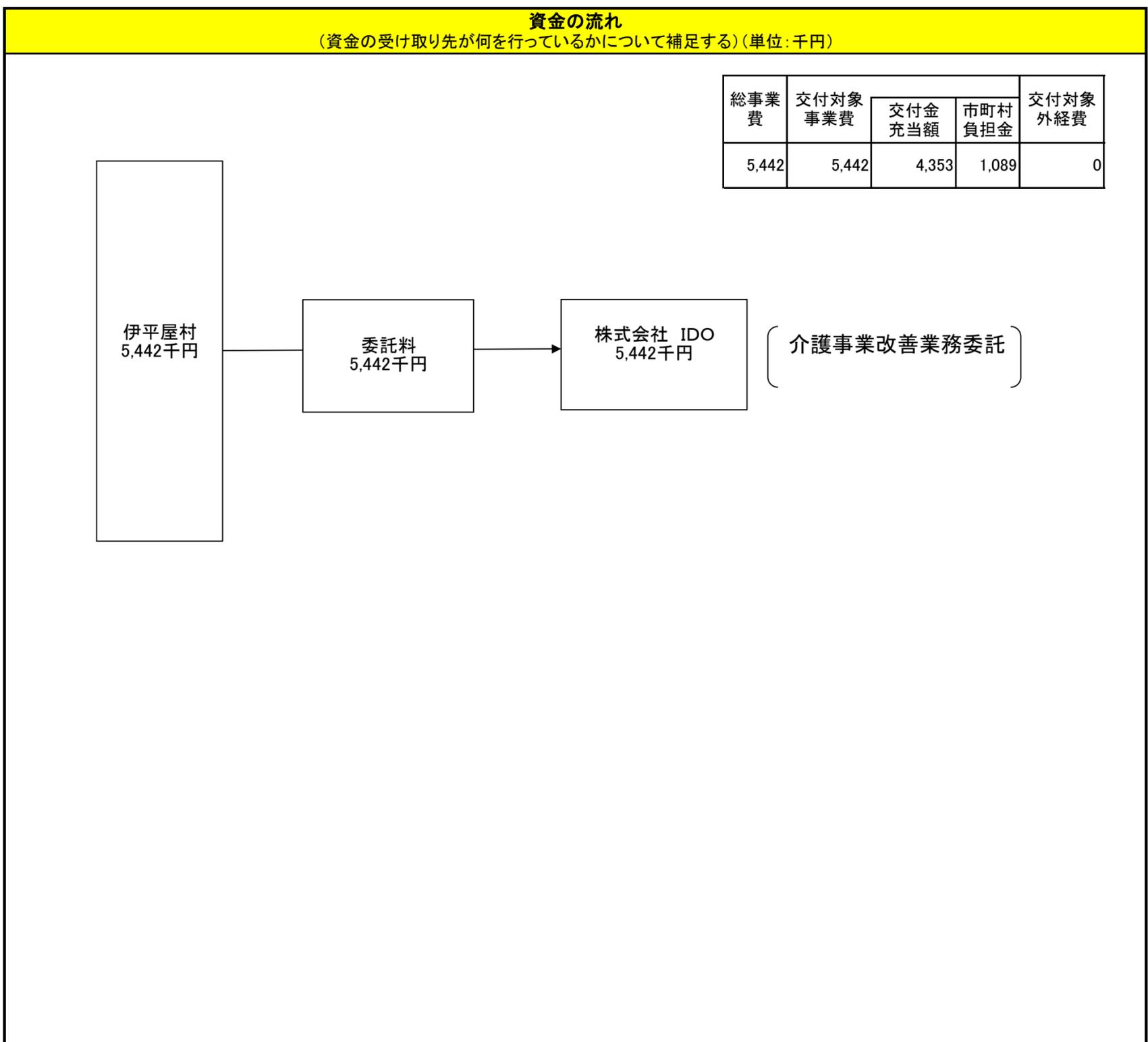
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、補助金の要綱に即した企業等を選定しており、妥当であると考えます。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は人員確保が困難な状況で執行率が低い状況が続いているため、成果目標達成や生徒のキャリア教育の観点を踏まえ、適宜見直しを必要とする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出に関する書類により確認し、適正であった。 ○急な生徒の欠席及び計画変更により不要額が生じたが、予算作成時の見積もりは妥当であった。

市町村名	伊平屋村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑥	福祉従事者人材育成事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(5)-(ウ)		
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	日常生活を支える福祉サービスの向上			
事業内容	村では過去に福祉従事者の為に様々な事業で資格取得に向けて取り組んでおり、有資格者を輩出しているが、受け皿である事業所の施設環境の整備が追いついていない状況である。介護事業所の改革や研修実施、収益改善など効率化構築作業を行い、また、施設管理者向けのマネジメント等、施設改善に繋げ、維持向上を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,508	5,500	5,500			
		(b) 予算現額	5,508	5,500	5,500			
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0			
		(d) 繰越額	0	0	0			
		A. 計(b+d)	5,508	5,500	5,500			
	B. 執行済額		5,442	4,103	5,442			
	うち交付金充当額		4,353	3,282	4,353			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.8%	74.6%	98.9%			
予算の状況の説明		・執行残については委託の契約額残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
	・村内外での福祉人材育成確保研修の実施		目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
			実績	実施	実施	実施		
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	・コンサルティング業者の現場での毎月の訪問指導(2日以上)・遠隔指導(週2回以上)を実施することで施設職員のモチベーション向上を行い離職者が0名の状況となった。 ・施設管理の委託を受けた社会福祉協議会に対しての指導助言を行い、職場環境の改善(休暇の追加など)を図った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
			目標	()	(3名以上)	(3名以上)	(3名以上)	()
	・福祉人材3名以上		実績		3名	3名	4名	
			目標	()	(3名)	(3名)	(4名)	()
	・村内外での福祉人材育成確保研修の完了による資格取得・スキルアップ		実績		3名	3名	4名	
			進捗状況説明	・介護専門職員の離職による安定的な施設運営が困難な状況が続いていることから、コンサルティング業者を毎月定期的に現場介入させることで、介護業務形態、入居者へのアプローチ方法等の改善を行うことで、職員間の就業へのモチベーションが向上し、村内にて介護職初任者研修実施を現場より要望があった。 ・介護職初任者研修を週末夜、休日を利用し3週間の期間で開催。最終年度の今年度は施設職員の初任者研修受講・資格取得者が4名となり、初任者研修受講・資格取得者は3カ年合計で10名となった。 ・実際の現場の業務内容を改善していくことで後々の業務改善方法を自ら開発していける体制を構築できるよう、福祉人材育成のコンサルを実施。最終年度の今年度は4名受講し、3カ年合計で10名を育成することができ、R4後年度発現目標(9名以上)を上回った。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・令和4年度より取り組んだ介護事業の改善により、業務上抱えている問題点を適宜、助言・指導を実施することで介護従事者の業務に対するモチベーション向上に繋がり、結果、職員側より介護初任者研修の実施希望の声が上がりに繋がったこと、更に、利用者のニーズに寄り添ったサービス展開を行うことで利用者・職員間の信頼関係が向上したこと、並びに施設管理を受託している社会福祉協議会においても職員目線の経営(休日の提案など)改善などを行うことで、利用者・介護従事者双方で利用しやすい環境構築ができたことが目標達成の要因と考えられる。</p>	<p>・介護従事者の資格取得の為に介護職初任者研修の開催が年度末になったことで、介護従事者の受講スケジュールがタイトになったこと。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・今後は、同受講スケジュールを前倒し且つゆとりあるスケジュールで実施させることで高いモチベーションを維持した状態で受講できる環境を提供し、介護の質を高める。</p>		

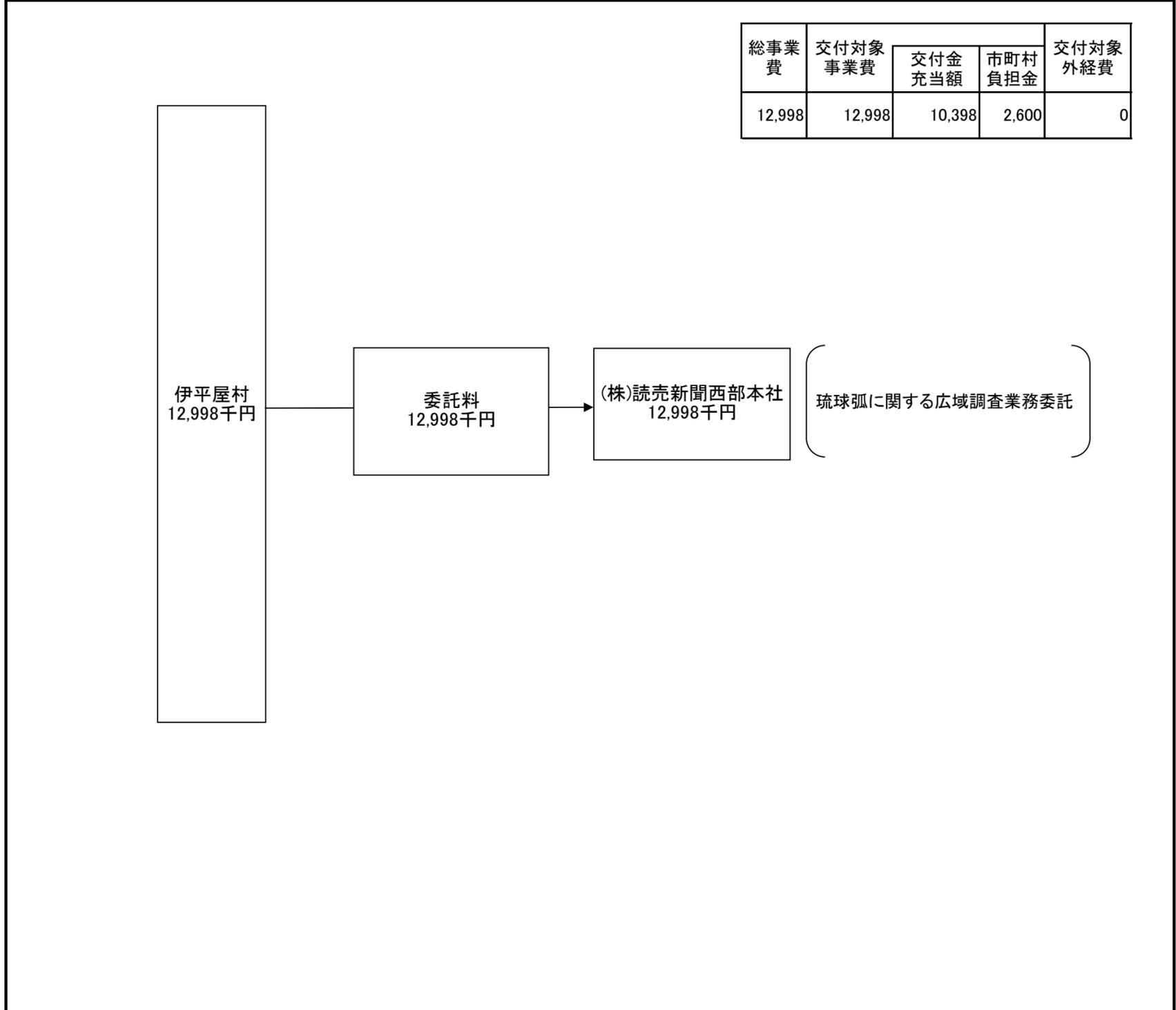


資金の流 れ、費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、地方自治法施行令第167条の2及び伊平屋村財務規則第115条に基づき随意契約しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○総事業費の2割を村が負担していること。施設は村が委託している社会福祉協議会が運営していることから妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	③-7	琉球弧に関する広域調査・文化資源創出事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	令和5年度 ～ 令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	琉球弧を対象地域とした調査を実施し、その内容を無償の出版物として刊行すると共に、調査結果等の展示を実施する。また、村内外へ本村の文化の普及啓発を行うことで、未来のSDGs並びに交流事業の活性化、関係人口の増加を狙う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000	13,600			
		(b) 予算現額	10,000	13,600			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	10,000	13,600			
	B. 執行済額		9,999	12,998			
	うち交付金充当額		7,999	10,398			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	95.6%			
予算の状況の説明		調査・出版と2回の展示のうち一つを業務委託とした。不用額の602千円は委託費の残額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況					
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
	調査委託の完了 展示会の実施	目標 (完了)	(完了)	()	()		
	実績	完了	完了				
達成状況説明	・出版物は予定していた1月末に刊行できた。 ・展示は2月より歴史民俗資料館と2/7～2/9の島外イベント(伊平屋物産フェア)で実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)	
	調査委託の完了	目標	()	(完了)	(完了)	()	()
		実績		完了	完了		
	展示会の実施	目標	()	(実施)	(実施)	()	()
		実績		実施	実施		
	出版物・展示のアンケート調査により、風土・環境の魅力が伝わったか(70%)、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(70%)	(70%)	()	()
		実績		82%	90%		
	【参考指標】 関係人口の増加 歴史民俗資料館の来館者数	目標	(516)	(1,516)	(1,516)	()	()
実績			1,310	1,458			
進捗状況説明	調査業務及び展示会は実施した。関係人口増加の指標は昨年度より148人増加した。令和8年度に1,516人を目標としている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 調査委託の完了については、調査実施前に調査チームとWeb会議を開き、本村に関する情報共有を行い、現地での概要説明など情報共有を行った為、調査委託を完了、出版物を発行することが出来た。 展示の実施は本村の歴史民俗資料館とタイムスビルで開催された伊平屋物産フェアで実施することが出来た。 出版物が評価されたこと、展示会のリピート客の来場が多かったことがアンケート結果がよかった要因だと考える。引き続き高品質の出版物のを発行するとともに、新規客にも評価してもらえるような展示内容を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 出版物の制作工程に関し、部分的に内製化できれば、委託費を小さくすることができたと考える。 新規客の評価を得られるよう、出版物の配布範囲、展示活動の内容・場所の設定をする。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 業務生産性を高める課程で、制作の内製化の検討をする。 出版物の配布範囲、展示を本村のフェリーターミナル、運天港のフェリーターミナルなど資料館に近い場所で不特定多数の人の目に触れる活動に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



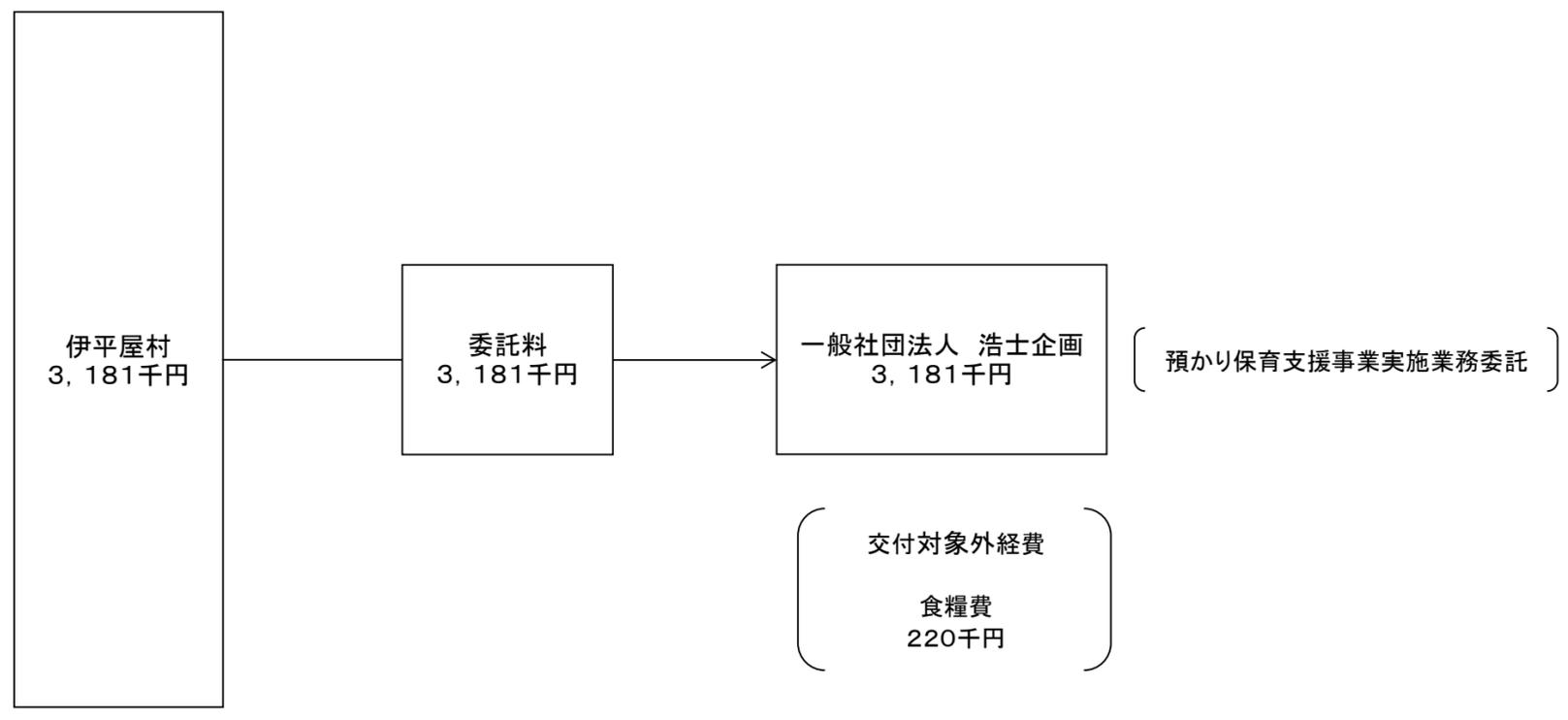
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託者はプロポーザル方式で選定したため、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○紙面制作に係わるライター・カメラマン・デザイナー等で実績のあるスタッフにより制作した。予算は適正規模と考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は受託者より実績額及び実施報告書を提出させ、確認をし、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	幼稚園預かり保育支援事業					
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度 平成24年度～令和13年度					
事業内容	保護者が安心して子どもを預けることができる環境を整備するため、預かり保育支援員を配置し、育児の負担軽減を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,160		2,280	1,830	3,484
		(b) 予算現額	2,160		1,824	1,830	4,273
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲456	0	789
		(d) 繰越額	0			0	0
		A. 計(b+d)	2,160	0	1,824	1,830	4,273
		B. 執行済額	2015		1208	475	3,181
		うち交付金充当額	1597		966	380	2,544
		次年度繰越額	0			0	0
		執行率(%) (B/A)	93.3%	#DIV/0!	66.2%	26.0%	74.4%
予算の状況の説明	夏季休業期間実施分の人件費等を増額、また、実績に伴い当初予定していた人件費等の減額を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	委託事業 1件	目標	()	(1件)	(1件)	(1件)	
		実績		1件	1件	1件	
達成状況説明	委託契約を結ぶことにより、預かり保育支援員を1名以上配置できた。希望するすべての世帯に対して、預かり保育を毎年実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	保護者へのアンケートで、預かり保育により育児における負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、当該事業の在り方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		100%	100%	100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	預かり保育を利用した保護者へのアンケートにおいて、「幼稚園預かり保育支援事業があることで、子育て・就労がしやすい」との質問に「そう思う」と回答した保護者は100%であることから、成果目標を達成できたと考える。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	前年度までの直営での実施は、深刻な人材不足により嘱託保育士を確保することが難しく、運営が不安定であったが、今年度は有資格者のいる会社と委託契約を結んだことにより、年間を通して安定した保育運営ができ、活動の内容も充実したものになった。	保護者アンケートの回収率が低くなってしまったため、配布時期や場所など検討を行う必要がある。日頃から、保護者や保育担当者の意見・要望を取り入れやすいよう情報交換の場などを設定する。
今後の取り組み方針		
引き続き安定的な人材確保に努め、保護者が安心して子育て、就労ができるよう育児負担軽減の支援を行う。特段の配慮が必要な幼児に対してもスムーズに対応できるよう、更なる連携強化、環境づくりに努める。保護者や保育担当者の意見・要望を取り入れやすいよう、定期的な情報交換の場などを設定する。事業完了前に、保護者へのアンケート調査を実施し、子育て支援による負担軽減が図られたか評価する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,401	3,181	2,544	637	220



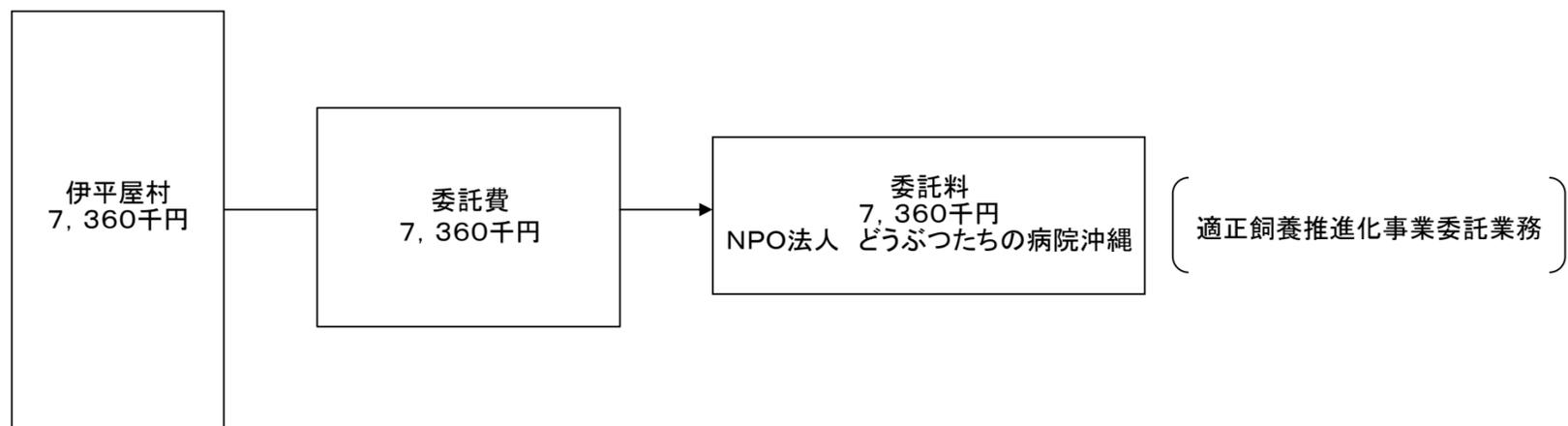
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は公募型プロポーザル方式により委託事業者を選定し、契約を締結しており妥当と考える。 ○予算規模は見積書を徴して策定したため、適正であった。 ○費目・使途は事業運営に要するものに限定し、書類検査も実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	適正飼養推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(3)-(オ)	
担当部課名	住民課	事業実施 (予定)年度	令和5年度 ～ 令和8年度	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	保健衛生環境の向上	Ⅲ-9-(2)	
事業内容	本村の住みよい住環境の提供を図るため、条例の策定を通して猫の適正飼養に向けた普及・啓発活動の取組を行い、人と動物の共生する社会の実現を図ることを目的とする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R5年度	R6年度				
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,500	7,500			
		(b) 予算現額	7,500	7,500			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	7,500	7,500			
	B. 執行済額	7,489	7,360				
	うち交付金充当額	5,991	5,888				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	99.9%	98.1%				
予算の状況の説明	・執行残については委託の契約額残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況					
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	・避妊去勢手術3回/年	目標	(3回/年)	(3回/年)	()	()	
		実績	3回	3回			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・普及啓蒙活動も兼ねて先行して猫の避妊・去勢手術を先行実施し、有用性もPRできた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)	
		目標	()	(50頭)	(50頭)	()	()
	・避妊去勢手術実施済猫	実績		88頭	108頭		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
		進捗状況説明	・住民向けの説明会にて、避妊去勢手術の勧め・室内飼育の勧め等の説明をした。 ・説明会や個別指導の影響で村内の多頭飼育者から申し出があり、猫の避妊去勢手術を実施した(約30頭中19頭)。その後、多頭飼育者の生活環境が改善され、地域への悪臭・糞尿による苦情も減少した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業にて、避妊去勢の重要性や室内飼育の重要性、多頭飼育による住民被害について説明会や啓蒙活動で一貫して伝えることで、愛猫家にも寄り添って事業を実施でき、避妊去勢手術50頭以上の目標達成につながったと考える。その結果、多頭飼育飼い主の周辺住宅トラブルが減少したことに加えて、その他の集落にも宣伝効果が発現し、猫飼養に対し多くの村民が関心を持つようになった。</p>	<p>野良猫や野猫に餌やりを行っている村民に向けての先行的アプローチが不足していたこと等を踏まえ、検討委員会での協議を継続する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・今後は検討委員会でも議題に挙げた、条例の推進員・餌やりを行う管理人を設置し、村民全員で猫と共存可能な社会を構築する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,360	7,360	5,888	1,472	0



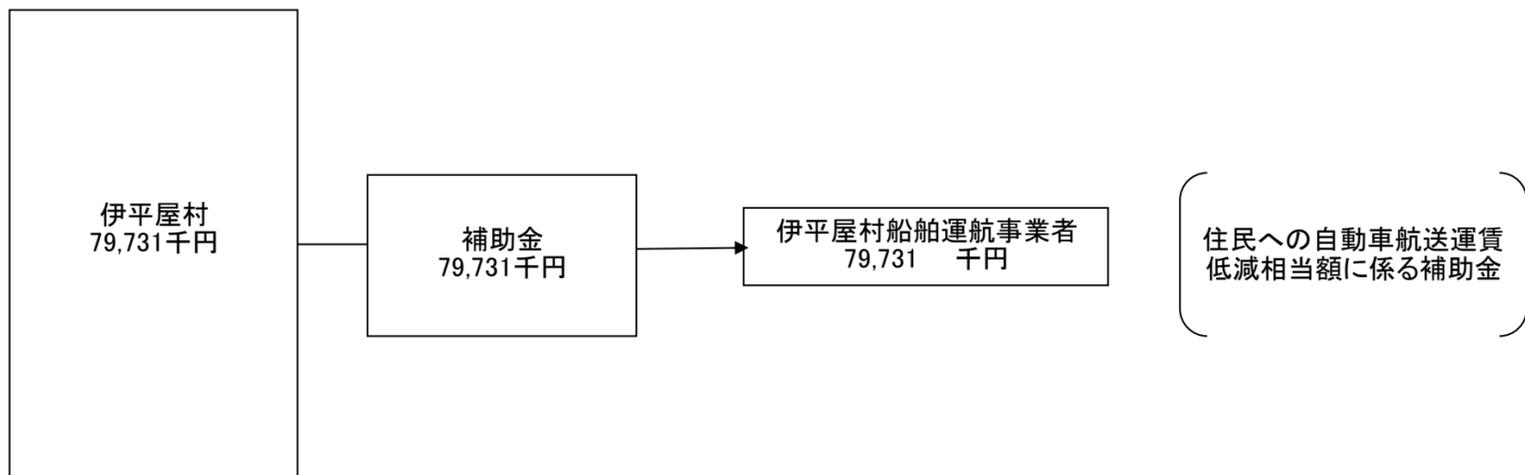
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支出先については、地方自治法施行令第167条の2及び伊平屋村財務規則第115条に基づき随意契約しており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	伊平屋村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	自動車航送コスト負担軽減事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ア	
担当部課名	企画財政課	事業実施 (予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	人流・物流のコスト低減と情報 通信基盤の強化	Ⅲ-9-(2)	
事業内容	本村と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減し定住環境の改善を図るため、その一部を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	67,041	67,041	67,041	67,041	67,041
		(b) 予算現額	55,806	67,041	72,385	76,283	81,803
		(c) 増減額(b-a)	▲ 11235	0	5,344	9,242	14,762
		(d) 繰越額		0	0	0	
		A. 計(b+d)	55,806	67,041	72,385	76,283	81,803
	B. 執行済額		55,806	63,474	72,231	73,905	79,731
	うち交付金充当額		44,645	50,779	57,785	59,124	60,015
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	95%	100%	97%	97.5%
予算の状況の説明		前年度と同額程度の利用を想定し当初予算を計上したが、新型コロナ以前の利用者数に回復し昨年度よりも利用数に増加があり、実績を上回った。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	自動車航送運賃の低減 R6年度:年間6,300台	目標	(自動車航送運賃の低減年間6,300台)	(自動車航送運賃の低減年間6,300台)	(自動車航送運賃の低減年間6,300台)	(自動車航送運賃の低減年間6,300台)	
		実績	5,856台	6,697台	6,867台	7,331台	
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明		自動車船送運賃の低減については当初の目標を大幅に上回ることができた。運賃の低減により住民が自動車を利用しやすくなり住民の生活の質を向上させ、沖縄本島との移動しやすい環境構築により、定住環境の改善が図られていると考える。					
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	運賃補助によって沖縄本島へ移動しやすい環境となっているか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		95%	96%	93%	
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明		島民へのアンケートを実施した結果、93%の人が沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたと感じると回答している。このことから当事業にて、医療機関への通院や冠婚葬祭、教育関係行事等での沖縄本島までの移動手段が確保され、村民の経済的負担の軽減に寄与した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの結果、利用者満足度は目標の80%に届いた。 ・物価が高騰している状況の中で、運賃低減による支援が目標達成の要因と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前予約システムのオンライン導入などで、利用しやすい環境の構築、支援事業の満足度の向上を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・事前予約システムのオンライン導入など、利用しやすい環境の更なる改善に向けて事業を実施する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
79,731	79,731	60,015	19,716	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については補助目的に沿った団体へ支出しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、概ね妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については沖縄離住民等交通コスト負担軽減事業を参考に設定し、妥当であると考えます。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、確定検査において、必要書類等を確認した結果適正と判断した。